

30年11月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 11月1日～ 30年11月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
仕入動向	国産材製材品	△ 7.1	△ 28.6	△ 42.9
	外材製材品	△ 7.1	△ 21.4	△ 28.6
	構造用集成材	△ 8.3	△ 33.3	△ 50.0
消費動向	国産材製材品	△ 7.1	△ 28.6	△ 42.9
	外材製材品	7.1	△ 28.6	△ 35.7
	構造用集成材	△ 8.3	△ 25.0	△ 41.7
在庫動向	国産材製材品	△ 7.1	△ 14.3	△ 28.6
	外材製材品	7.1	△ 7.1	△ 21.4
	構造用集成材	△ 16.7	△ 16.7	△ 33.3

・プレカット加工用部材の仕入動向は、国産材、外材製材品、構造用集成材とも3カ月連続減少。

・国産材製材品、構造用集成材の消費及び在庫動向は3カ月連続減少。外材製材品は11月の増加から12月、1月は減少に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
受注	14.3	△ 7.1	△ 35.7
加工	16.7	8.3	△ 25.0
受注残	0.0	0.0	△ 25.0

・プレカット工場の受注動向は11月の増加から12月、1月は減少に。加工動向は11月、12月の増加から1月は減少に。受注残の動向は11月、12月の横ばいから1月は減少に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・仕入動向は国産材に多少の窮屈感有り。加工量減少に伴い消費量も減。在庫動向は材積、金額とも大きな変化なく推移する予定。構造用集成材は実績なし。
・コンテナの入り方によって外材製材品、構造用集成材の仕入動向は大きく変化しそう。構造用集成材の消費が少し多めになると思われる。ただし、それでも昨年と比較すると消費量は減。在庫動向は不需要期に入る前にできる限り在庫を減らしたいところ。

(受注動向)

・秋需なく低水準で推移。雪の季節到来ですべてにおいて減少傾向。
・受注・加工と期待している坪数くらいには上がってこない。